

(様式第 10)

聖医大管 第 260 号
令和元年 10 月 2 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ
理事長 明石 勝也

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
氏 名	学校法人 聖マリアンナ医科大学 理事長 明石 勝也

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

聖マリアンナ医科大学病院

3 所在の場所

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号 電話 (044) 977-8111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科		
2消化器内科		
3循環器内科		
4腎臓内科		
5神経内科		
6血液内科		
7内分泌内科		
8代謝内科		
9感染症内科		
10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		
11リウマチ科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科		
診療実績		

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 15麻酔科 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 消化器・肝臓内科 2 代謝・内分泌内科 3 脳神経内科 4 腫瘍内科 5 神経精神科 6 乳腺・内分泌外科 7 形成外科 8 病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
52床	0床	0床	0床	1,123床	1,175床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	606人	160人	613.6人	看護補助者	121人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	0人	0人	0人	理学療法士	21人	臨床検査技師	112人
薬 剤 師	80人	0人	80人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	80人	2人	81.3人	視能訓練士	9人	その他	0人
助 産 師	47人	0人	47人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	997人	48人	1,024.1人	臨床工学士	35人	医療社会事業従事者	14人
准看護師	1人	0人	1人	栄 養 士	2人	その他の技術員	56人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯 科 技 工 士	0人	事務職員	271人
管理栄養士	16人	0人	16人	診療放射線技師	73人	その他の職員	0人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	60人	眼科専門医	9人
外科専門医	40人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	23人
小児科専門医	21人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	23人
泌尿器科専門医	5人	麻酔科専門医	9人
産婦人科専門医	24人	救急科専門医	18人
		合 計	265人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (北川 博昭) 任命年月日 平成29年4月1日

業務経験

- ・平成15年4月1日(医療安全発足時)より医療安全管理対策室長に就任。
- ・平成24年4月1日より医療安全対策委員長及び医療安全管理担当副院長に就任。

業務内容

- ・毎月1回医療安全対策委員会へ出席し審議。
- ・院内のインシデント・アクシデント報告を受け、案件により臨時医療安全対策委員会開催を指示。
- ・医療安全管理室より案件報告を受け、毎月1回病院としての対応を協議。
- ・毎月1回患者相談全記録の確認。
- ・全国医学部長病院長会議等からの『医療安全情報』を確認し、当該部署へ情報提供。
- ・日本私立医科大学協会の相互ラウンド(当院への訪問)に参加。
- ・医療安全関連の教職員研修会に参加。
- ・横浜地方裁判所の医療訴訟関係協議会へ出席。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	799人	0人	799人
1日当たり平均外来患者数	2,079人	0人	2,079人
1日当たり平均調剤数			1,260.1剤
必要医師数			204人
必要歯科医師数			0人
必要薬剤師数			27人
必要(准)看護師数			470人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室 <small>(※内訳、下記参照)</small>	784.8 m ²	RC造	病床数	40床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 98.88m ² [移動式の場合] 台数 3台		病床数	10床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40.5m ² [共用室の場合] 共用する室名 薬剤部 (TDM室 薬物血中濃度モニタリング室)					
化学検査室	360m ²		(主な設備) フリーザー、浸透圧測定装置、分光光度計、生化学自動分析装置 純水装置、安全キャビネット、乾熱滅菌器、自動分注仕分装置			
細菌検査室	153m ²		(主な設備) 測定機器、フラン器、高圧滅菌器、遠心機、顕微鏡、冷蔵冷凍庫等			
病理検査室	385.96m ²		(主な設備) システムバーコード印字機、自動包埋装置、自動染色装置			
病理解剖室	134.81m ²		(主な設備) 解剖台、高圧滅菌装置、真空パック装置			
研究室	1,874.54m ²		(主な設備) 遠心分離機、超低温フリーザー、顕微鏡、高圧タンク、超純水装置			
講義室	1,547.35m ²		室数	5室	収容定員	1,164人
図書室	1,016.96m ²		室数	1室	蔵書数	140,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

※集中治療室

ICU 7床 145.6 m² (1床当たり 20.8 m²)、3床 67 m² (1床当たり 22.3 m²)、
 CCU 6床 107.8 m² (1床当たり 17.9 m²)、SCU 6床 127.4 m² (1床当たり 21.23 m²)、
 MFICU 6床 106.8 m² (1床当たり 17.8 m²)、NICU 12床 230.2 m² (1床当たり 19.14 m²)

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	93.8%	逆紹介率	82.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数		18,969人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,391人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,060人
	D: 初診の患者の数		23,483人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、明治大学法科大学院教授、山本柴崎法律事務所弁護士	○	日本を代表する民事訴訟法学者であり、医療事故調査委員会外部委員を務めるなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	有・無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 信秋	認定 NPO 法人難病のこども支援全国ネットワーク会 会長		文部科学省や厚生労働省の協力委員や検討委員などを歴任され、様々な立場での見識を有し、長年にわたり患者の立場に立った活動を行い、医療機関の倫理委員等を務め、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	有・無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
中尾 智彦	法務・監査室 室長		法人の法務・監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有・無	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

I

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	57人
LDLアフェレシス療法	0人
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	0人
腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法	3人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
6	球脊髄性筋萎縮症	56	ベーチェット病	217
27	筋萎縮性側索硬化症	57	特発性拡張型心筋症	144
5	脊髄性筋萎縮症	58	肥大型心筋症	180
1	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	2
16	進行性核上性麻痺	60	再生不良性貧血	56
714	パーキンソン病	61	自己免疫性溶血性貧血	59
13	大脳皮質基底核変性症	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	8
3	ハンチントン病	63	特発性血小板減少性紫斑病	200
0	神経有棘赤血球症	64	血栓性血小板減少性紫斑病	16
12	シャルコー・マリー・トゥース病	65	原発性免疫不全症候群	7
178	重症筋無力症	66	IgA 腎症	381
1	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	150
44	多発性硬化症/視神経脊髄炎	68	黄色靱帯骨化症	20
61	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	69	後縦靱帯骨化症	59
1	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	4
1	クドウ・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	72
30	多系統萎縮症	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
92	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
4	ライゾゾーム病	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
4	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	13
6	ミトコンドリア病	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
49	もやもや病	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3
0	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	2
0	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
0	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	1
132	HTLV-1関連脊髄症	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
0	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	0
1	全身性アミロイドーシス	83	アジソン病	11
0	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	185
1	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	57
0	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	160
0	自己食空胞性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
0	シュワルツ・ヤンペル症候群	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	29
22	神経線維腫症	89	リンパ管筋腫症	1
44	天疱瘡	90	網膜色素変性症	55
1	表皮水疱症	91	バッド・キアリ症候群	1
18	膿疱性乾癬(汎発型)	92	特発性門脈圧亢進症	6
10	スティーヴンス・ジョンソン症候群	93	原発性胆汁性肝硬変	130
0	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	15
15	高安動脈炎	95	自己免疫性肝炎	190
24	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	157
105	結節性多発動脈炎	97	潰瘍性大腸炎	543
164	顕微鏡的多発血管炎	98	好酸球性消化管疾患	5
107	多発血管炎性肉芽腫症	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
68	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
127	悪性関節リウマチ	101	腸管神経節細胞減少症	0
18	バージャー病	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
20	原発性抗リン脂質抗体症候群	103	CFC症候群	2
958	全身性エリテマトーデス	104	コステロ症候群	2
95	皮膚筋炎/多発性筋炎	105	チャージ症候群	0
87	全身性強皮症	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
167	混合性結合組織病	107	全身型若年性特発性関節炎	1
914	シェーグレン症候群	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
58	成人スチル病	109	非典型溶血性尿毒症症候群	3
93	再発性多発軟骨炎	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	3
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	87
113	筋ジストロフィー	31	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	27	167	マルファン症候群	9
118	脊髄髄膜瘤	13	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	5
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	1
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	4	179	ウィリアムズ症候群	2
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	1	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	2
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	3
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	3
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	9
144	レノックス・ガストー症候群	12	194	ソトス症候群	6
145	ウエスト症候群	7	195	ヌーナン症候群	2
146	大田原症候群	1	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	2
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムツェン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	3
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	6
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	5	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	10	207	総動脈幹遺残症	1
158	結節性硬化症	14	208	修正大血管転位症	3
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	4
160	先天性魚鱗癬	3	210	単心室症	7

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	5	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	45	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	19	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	7	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	8	266	家族性地中海熱	16
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	163	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	4	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	7	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	36
224	紫斑病性腎炎	34	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	6	274	骨形成不全症	6
227	オスラー病	15	275	タナトフォリック骨異形成症	2
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	6
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	12
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	35	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	9	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	1
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	1	293	総排泄腔遺残	5
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	6
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	10
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	1	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	3	299	嚢胞性線維症	2
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	41
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ボルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	1	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	3	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	5
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	4

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙施設基準届出状況参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 別紙施設基準届出状況参照	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

施設基準届出状況

保険医療機関
特定機能病院 がん診療連携拠点病院 肝疾患診療連携拠点病院 入院時食事療養（I）

< 基本診療料 >

- オンライン診療料
- 特定機能病院入院基本料（一般7対1）
- 特定機能病院入院基本料（精神10対1）
- 認知症期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算 1
- 医師事務作業補助体制加算1（40対1）
- 急性期看護補助体制加算（25対1）
- 看護職員夜間配置加算1（12対1）
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算 2
- 緩和ケア診療加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエンチーム加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染防止対策加算 1
- 抗菌薬適正使用支援加算
- 患者サポート体制充実加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算
- 総合評価加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 後発医薬品使用体制加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 2
- データ提出加算 2
- 入退院支援加算 1
- 精神疾患診療体制加算
- 救命救急入院料 1
- 救命救急入院料 4
- 特定集中治療室管理料 3
- ハイケアユニット入院医療管理料 1
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料（母体・胎児）
- 総合周産期特定集中治療室管理料（新生児）
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料 1

< 特掲診療料 >

- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料 イ
- がん患者指導管理料 ロ
- がん患者指導管理料 ハ
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料 1（臓器移植後の場合）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 乳腺炎症化学予防ケア・指導料
- 院内トリアージ実施料
- 外来放射線照射診療料
- ニコチン依存症管理料
- 療養・就労自立支援指導料
- がん治療連携計画策定料1
- がん治療連携計画策定料2
- 排尿自立指導料
- ハイリスク妊娠連携指導料 1
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 在宅血液透析指導管理料
- 持続血糖測定器加算
- 遺伝学的検査
- 骨髄微小残存病変量測定
- 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（I）
- 検体検査管理加算（IV）
- 国際標準検査管理加算
- 遺伝カウンセリング加算
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ヘッドアップフィルム試験
- 皮下連続式グルコース測定
- 長期連続脳内脳液検査
- 脳波検査判断料 1
- 神経学的検査
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料 1
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- センチネルリンパ節生検（片側）
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 3
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 外傷全身CT加算
- 心臓MRI撮影加算
- 乳房MRI撮影加算
- 頭部MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（I）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
- 運動器リハビリテーション料（I）
- 呼吸器リハビリテーション料（I）
- がん患者リハビリテーション料
- 通院・在宅精神療法
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
- 医療保護入院等診療料
- 人工腎臓
- 皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
- 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なも限る。）））
- 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
- 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、腎臓刺激装置植込術及び腎臓刺激装置交換術
- 線内挿手術（線内挿治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
- 線内挿手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
- 網膜再建術
- 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）
- 乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
- 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
- ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
- 肺悪性腫瘍手術（壁側・縦隔胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
- 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）嚢瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管嚢瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱嚢瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膈嚢嚢閉鎖術（内視鏡によるもの）
- 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
- 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術
- 経カテーテル大動脈弁置換術
- 経皮的僧帽弁クリップ術
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術
- 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経膈脈電極接去術
- 両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
- 大動脈バルーンパンピング法（ABPP法）
- 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
- 補助人工心臓
- バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
- 胆管悪性腫瘍手術（胆頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下脾腫瘍摘出術及び腹腔鏡下脾尾部腫瘍切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
- 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
- 胎児胸腔・羊水腔シャント術
- 胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
- 輸血管理料 1
- 自己クリオプレシビート作製術（用手法）
- 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
- 胃瘻造設時態下機能評価加算
- 麻酔管理料（I）
- 麻酔管理料（II）
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 1回線量増加加算
- 強度変調放射線治療（IMRT）
- 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- 病理診断管理加算 2
- 悪性腫瘍病理組織標本加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	CPC開催4回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 32例 / 剖検率 4.9%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	DOCK8陽性CD4陽性T細胞が実験的SLEを発症させる機序と治療標的候補の解明	櫻井 恵一	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	99,827	補委	(独)日本学術振興会
2	自然免疫を制御する新規胸腺由来CD200+T細胞に着目した膠原病の病態解明と治療	川畑 仁人	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
3	炎症と骨吸収に関与するIL-34は関節リウマチの治療の標的分子となりうるのか?	永渕 裕子	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	2,100,000	補委	(独)日本学術振興会
4	Layilin依存性上皮間葉移行を中心とした関節リウマチ滑膜細胞の制御	加藤 智啓	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
5	株化視細胞前駆細胞を用いた杆体細胞錐体細胞分化機構の解明	鈴木 登	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	200,000	補委	(独)日本学術振興会
6	メカニカルストレスに対する軟骨細胞の応答機構の解明と軟骨変性の治療法開発への応用	遊道 和雄	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
7	レビー小体型認知症における新規血清ペプチドバイオマーカーの実用化および治療応用	鈴木 真奈絵	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
8	HAMの病態形成におけるエピゲノム異常の統合的解析と新規制御機構の解明	山野 嘉久	脳神経内科	3,800,000	補委	(独)日本学術振興会
9	HAMで同定した制御性T細胞由来異常T細胞のウイルス因子による発生機構の解明	佐藤 知雄	脳神経内科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
10	慢性疾患におけるホープの臨床疫学的縦断研究と在宅医療への応用	柴垣 有吾	腎臓・高血圧内科	3,800,000	補委	(独)日本学術振興会
11	ポリコームグループタンパク質に着目した急性腎障害治療の可能性	市川 大介	腎臓・高血圧内科	1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
12	肝細胞造影機能を持つDual Excretion型ヨード性X線造影剤の新規開発	松本 伸行	消化器・肝臓内科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
13	内因性免疫によるB型肝炎ウイルス多様性メカニズムの解析と根治的治療への応用	渡邊 綱正	消化器・肝臓内科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
14	たこつば症候群患者に対する運動療法の再発予防効果	明石 嘉浩	循環器内科	2,000,000	補委	(独)日本学術振興会
15	血管内視鏡を用いた経皮的心房中隔欠損症閉鎖術後における閉鎖栓の内膜被覆度の評価	田邊 康宏	循環器内科	1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
16	乳癌患者に対する3次元心エコー図を用いた薬剤性心筋症スクリーニング方法の確立	出雲 昌樹	循環器内科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
17	大規模DPCデータを用いた疫学研究～大気汚染が与える心疾患発症と奪う医療費	米山 喜平	循環器内科	3,000,000	補委	(独)日本学術振興会
18	妊娠高血圧症候群における血管内皮細胞の形態学的変化と抗凝固薬の保護効果機序の検証	日野 博文	麻酔科	500,000	補委	(独)日本学術振興会

小計:18

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
19	免疫学的作用機序に着目したセツキシマブ感受性因子の検討	野口 映	診断病理科	800,000	補委	(独) 日本学術振興会
20	免疫チェックポイント薬と局所免疫の併用による悪性黒色腫の治療	門野 岳史	皮膚科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
21	ヒトiPS細胞由来メラノサイトを使用した白斑・乳輪再建・悪性黒色腫再生医療研究	川上 民裕	皮膚科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
22	乳癌領域における健康関連QOLデータベースの構築	岩谷 胤生	乳腺・内分泌外科	500,000	補委	(独) 日本学術振興会
23	乳癌・卵巣癌治療の分子基盤としてのグアニン4重鎖解除機構の解析	太田 智彦	乳腺・内分泌外科	4,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
24	スポーツ脳振盪における眼球運動測定による定量化の研究	小野寺 英孝	脳神経外科	800,000	補委	(独) 日本学術振興会
25	重度末梢神経障害治療を可能とするHybrid Vein Wrapping法の開発	村上 賢一	整形外科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
26	微弱電流および高気圧酸素は損傷骨格筋の筋力回復を促進させるか	藤谷 博人	整形外科	600,000	補委	(独) 日本学術振興会
27	miR195-5pを用いた膀胱癌に対する革新的膀胱内注入療法の開発	佐々木 秀郎	腎泌尿器外科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
28	移植腎の長期予後を左右するMMP-9の役割とその特徴的な動態の解明	北島 和樹	腎泌尿器外科	900,000	補委	(独) 日本学術振興会
29	貧血ラットに対する後腎移植および骨髄幹細胞移植の影響に関する検討	勝岡 由一	腎泌尿器外科	1,000,000	補委	(独) 日本学術振興会
30	胎児期尿路閉塞・胎児胸水に用いる機能温存型穿刺型シャントチューブキットの開発	北川 博昭	小児外科	1,100,000	補委	(独) 日本学術振興会
31	自己細胞を用いた再生気管の臨床応用に向けて	小島 宏司	呼吸器外科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
32	リンパ管の解剖学的優位性の探求からリンパ浮腫外科治療の効果を向上させる新しい研究	関 征央	形成外科	1,300,000	補委	(独) 日本学術振興会
33	AYA世代がん患者に対する性腺組織凍結技術を用いた新たな生殖医療技術の開発	鈴木 直	産婦人科	3,600,000	補委	(独) 日本学術振興会
34	カニクイザルを用いた危機的産科出血に対する子宮動脈塞栓術の基礎的研究	五十嵐 豪	産婦人科	1,600,000	補委	(独) 日本学術振興会
35	性犯罪のリスクのある障がい者の社会インテグレーション	安藤 久美子	神経精神科	1,200,000	補委	(独) 日本学術振興会
36	めまいリハビリテーションへの応用を目的とした前庭動眼反射の可塑性の検討	肥塚 泉	耳鼻咽喉科	2,900,000	補委	(独) 日本学術振興会
37	難治性中耳炎に対する細胞シート治療の普及に向けた新規作製法の確立	谷口 雄一郎	耳鼻咽喉科	1,400,000	補委	(独) 日本学術振興会

小計:19

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
38	内リンパ水腫マウスにおける利尿剤投与後のMRI内耳評価およびプロテオーム解析	中村 学	耳鼻咽喉科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
39	高周波超音波プローブと母体血清マーカーを用いた癒着胎盤の診断に関する研究	長谷川 潤一	産婦人科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
40	光干渉断層計を用いた最適組織選択による効果的卵巣組織移植法の開発	高江 正道	産婦人科	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
41	若年卵巣悪性腫瘍の抗がん治療と卵巣機能温存の両立を目指した新規治療の開発	黄 志芳	産婦人科	1,700,000	補委	(独)日本学術振興会
42	生殖科患者・医療者、医療経済面で良い心理社会的ケア、心理カウンセリングと医療連携	小泉 智恵	産婦人科	3,900,000	補委	(独)日本学術振興会
43	補体活性化制御によるSTEC-HUSの治療を目指した基盤研究	尾崎 将之	救命救急センター	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
44	病院前心肺蘇生法術における脳組織酸素飽和度と自己心拍再開率の関係についての検討	津久田 純平	救命救急センター	1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
45	他施設レジストリに基づく院内救急体制の質改善と早期警告スコアの開発	内藤 貴基	救命救急センター	800,000	補委	(独)日本学術振興会
46	VEGF治療耐性を惹起するエピジェネティクスの解明	高木 均	眼科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
47	視神経軸索障害におけるオートファジーを含む代謝処理機能不全の機構解明	北岡 康史	眼科	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
48	糖尿病網膜症におけるヒストン脱メチル化酵素jmd1aの検討	塩野 陽	眼科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
49	ヒト細胞培養由来L-cysteineによるカルバペネム系抗菌薬失活効果の解析	竹村 弘	感染制御部	600,000	補委	厚生労働省
50	薬剤耐性菌制御における腸内細菌フローラに関する探索研究	國島 広之	感染制御部	1,100,000	補委	厚生労働省
51	HAMならびにHTLV-1陽性難治性疾患に関する国際的な総意形成を踏まえた診療ガイドラインの作成	山野 嘉久	脳神経内科	11,539,000	補委	厚生労働省
52	軟骨炎症性疾患の診断と治療体系の確立	鈴木 登	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	3,000,000	補委	厚生労働省
53	小児・AYA世代がん患者のサバイバースキップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の均てん化に向けた臨床研究	鈴木 直	産婦人科	12,050,000	補委	厚生労働省
54	医療行為にかかわる分類の国際比較とその改善や利用価値の向上に資する研究	川瀬 弘一	小児外科	2,000,000	補委	厚生労働省
55	HAMの革新的治療となる抗CCR4抗体製剤のコンパッションエートユースによる長期投与試験	山野 嘉久	脳神経内科	58,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
56	HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の診療ガイドラインに資する統合的レジストリーの構築によるエビデンスの創出	山野 嘉久	脳神経内科	12,600,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
57	HAMの治療薬開発を促進する代替エンドポイントとしてのバイマオーカーの実用化研究	山野 嘉久	脳神経内科	21,230,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
58	高度腹膜転移胃癌に対する標準化学療法確立に関する研究	中島 貴子	腫瘍内科	13,576,924	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
59	高リスクER陽性乳がんの内分泌療法耐性機序解明に基づく診断法と薬物療法の開発	太田 智彦	乳腺・内分泌外科	13,578,462	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
60	慢性めまいの診断法確立とめまい指導の有用性に関する研究	肥塚 泉	耳鼻咽喉科	4,666,400	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
61	クリゾチニブの再発又は難治性小児ALK(anaplastic lymphoma kinase)陽性未分化大細胞型リンパ腫(anaplastic large cell lymphoma,ALCL)に対する第I/II相および再発又は難治性神経芽腫に対する第I相医師主導治験	森 鉄也	小児科	40,180,608	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計:5
合計:61

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Matsushita S, Yamashiro T, Matsuoka S 他	放射線科	The Association Between Bronchial Wall CT Attenuation and Spirometry in Patients with Bronchial Asthma.	Academic Radiology 26巻7号 P960-966 2018年7月	Original Article
2	Matsuoka S, Kotoku A, Yamashiro T 他	放射線科	Quantitative CT Evaluation of Small Pulmonary Vessels in Patients with Acute Pulmonary Embolism.	Academic Radiology 25巻5号 P653-658 2018年5月	Original Article
3	Yukinori Okada, Tatsuyuki Abe, Mio Shinozaki 他	放射線科	Strontium-89 Therapy for Breast Cancer Bone Metastases: Pain Relief Effects and Predictive Factors	Advances in Breast Cancer Research 7巻4号 P250-257 2018年10月	Original Article
4	Shingo Sakamoto, Hisao Nakamura, Oga Sasaki 他	放射線科	Physiologic and Characteristic Distributions of Glutamate/Glutamine in Patients with Major Depressive Disorder	Journal of St. Marianna University 9巻1号 P1-6 2018年6月	Original Article
5	Nakamura Hisao, Doi Masatomo, Suzuki Takuya 他	放射線科	The Significance of Lactate and Lipid Peaks for Predicting Primary Neuroepithelial Tumor Grade with Proton MR Spectroscopy.	Magnetic resonance in medical sciences : MRMS : an official journal of Japan Society of Magnetic Resonance in Medicine 17巻3号 P238-243 2018年7月	Original Article
6	Shinya Tajima, Ichiro Maeda, MOTOHIRO Chosokabe 他	病理診断科	Atypical Ductal Lesions in the Breast:Review	Archives in Biomedical Engineering & Biotechnology 1巻2号 P1-2 2019年2月	Review
7	Chosokabe M, Noguchi A, Hoshikawa M 他	病理診断科	SRT1 Expression Is Associated With Cell Proliferation in Angiosarcoma	Anticancer research 39巻3号 P1143-1150 2019年3月	Original Article
8	Shinya T, Ichiro M, Motohiro C, Keiko K 他	病理診断科	Breast Benign Papillary Lesions: Mini-Review	Clinical Pathology & Research Journal 2巻1号 P1-2 2018年8月	Review
9	Ichiro Maeda, Shinya Tajima, Yoshihide Kanemaki 他	病理診断科	Use of immunohistochemical analysis of CK5/6, CK14, and CK34betaE12 in the differential diagnosis of solid papillary carcinoma in situ from intraductal papilloma with usual ductal hyperplasia of the breast	SAGE Open Medicine 6巻 P1-8 2018年11月	Original Article
10	Hoshino M, Shimizu T, Ogura H 他	脳神経内科	Intraplaque Microvascular Flow Signal in Superb Microvascular Imaging and Magnetic Resonance Imaging Carotid Plaque Imaging in Patients with Atheromatous Carotid Artery Stenosis	J Stroke Cerebrovasc Dis 27巻12号 P3529-3534 2018年12月	Original Article
11	Okada Y, Shiraishi M, Nakamura H 他	脳神経内科	Usefulness of the combination of iodine-123-metaiodobenzylguanidine scintigraphy and iodine-123-ioflupane scintigraphy in new-onset Parkinson's disease	Nucl Med Commun 39巻11号 P983-988 2018年11月	Original Article
12	Hagiwara Y, Sasaki R, Shimizu T 他	脳神経内科	The utility of superb microvascular imaging for the detection of deep vein thrombosis	Journal of Medical Ultrasonics 45巻4号 P665-669 2018年10月	Case report

小計:12

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
13	Hagiwara Y, Araga T, Saito Y 他	脳神経内科	Utility of transoral pharyngeal ultrasonography for puncture drainage of peritonsillar abscess	Clinical case reports 7巻4号 P839-840 2019年2月	Case report
14	Akiyama H, Hasegawa Y.	脳神経内科	Awareness of atrial fibrillation in Japan: A large-scale, nationwide Internet survey of 50,000 Japanese adults	Geriatr Gerontol Int 2018 18巻7号 P1100-1107 2018年7月	Original Article
15	Hagiwara Y, Yoshie T, Shimizu T 他	脳神経内科	Contrast-enhanced transoral carotid ultrasonography for the evaluation of plaque protrusion after carotid artery stenting	J Clin Ultrasound 46巻9号 P598-601 2018年11月	Case report
16	Yoshie T, Ueda T, Takada T 他	脳神経内科	Effects of Pretreatment Cerebral Blood Volume and Time to Recanalization on Clinical Outcomes in Endovascular Thrombectomy for Acute Ischemic Stroke	J Stroke Cerebrovasc Dis 27巻7号 P1802-1809 2018年7月	Original Article
17	Kashima S, Shimizu T, Akiyama H 他	脳神経内科	Magnetic Resonance Imaging White Matter Hyperintensity as a Predictor of Stroke Recurrence in Patients with Embolic Stroke of Undetermined Source	J Stroke Cerebrovasc Dis 27巻12号 P3613-3620 2018年12月	Original Article
18	Tanaka K, Shiraishi M, Uchino K 他	脳神経内科	Overnight Accelerometric Monitoring of Nocturnal Motor Disability: Different Kinetic Properties between Parkinson's Disease and Hemiplegic Stroke	Journal of St. Marianna University 9巻2号 P43-51 2018年12月	Original Article
19	Hagiwara Y, Shimizu T, Hasegawa Y.	脳神経内科	Contrast-enhanced transoral carotid ultrasonography for the diagnosis and follow-up of extracranial internal carotid artery dissection	Journal of clinical ultrasound : JCU 46巻5号 P368-371 2018年6月	Case report
20	Akiyama H, Sasaki R, Hasegawa Y.	脳神経内科	Efficacy of perampanel for anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis: A case report.	Medicine (Baltimore) 98巻2号 2019年1月 (オンライン)	Case report
21	Sato T, Yagishita N, Tamaki K 他	脳神経内科	Proposal of Classification Criteria for HTLV-1-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis Disease Activity.	Front Microbiol 25巻9号 P1651 2018年7月	Original Article
22	Junji Yamauchi, Yoshihisa Yamano, Kenji Yuzawa.	脳神経内科	Risk of Human T-Cell leukemia virus type 1 infection in kidney transplantation.	The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE 380巻3号 P296-298 2019年1月	Original Article
23	Takumi Ichiro, Akimoto Masataka, Hironaka Kouhei 他	脳神経外科	Pedicle galeo-pericranial flap augmentation in salvage frontotemporal cranioplasty: Additional 'Neurosurgeon-friendly' reconstruction technique of aesthetic neurosurgery i superficial temporal artery branch compromised host	Neurologia medico-chirurgica 58巻8号 P350-355 2018年7月	Others
24	Ito Hidemichi, Uchida Masashi, Sase Taigen 他	脳神経外科	Risk factors of contralateral microembolic infarctions related to carotid artery setting.	Neurologia medico-chirurgica 58巻7号 P311-319 2018年6月	Original Article
25	Kojima Yasuyuki, Kawamoto Hisanori, Nishikawa Toru 他	乳腺・内分泌外科	Feasibility study of weekly nanoparticle Albumin-Bound Paclitaxel(150mg/m2)followed by fluorouracil, epirubicin, and cyclophosphamide therapy as neoadjuvant chemotherapy for HER2-negative Breast Cancer.	Clinical breast cancer 18巻5号 P374-379 2018年10月	Original Article

小計:13

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
26	Iwatani Tsuguo, Noto Shinichi, Tsugawa Koichiro.	乳腺・内分泌外科	An International comparative Study on EuroQol-5-Dimension Questionnaire(EQ-5D)tariff score between the UK and Japan	Japan Journal of Medicine 1巻6号 P291-296 2018年9月	Original Article
27	Kojima Yasuyuki, Yoshie Reiko, Kawamoto Hisanori 他	乳腺・内分泌外科	Trastuzumab emtansine(T-DM1)plus S-1 in patients with Trastuzumab- Pretreated HER2-Positive advanced or metastatic breast cancer:A Phase Ib study	Oncology 96巻6号 P309-317 2019年3月	Original Article
28	Kawanabe Shin, Nagai Yoshio, Nakamura Yuta 他	代謝・内分泌内科	Association of the muscle/fat mass ratio with insulin resistance in gestational diabetes mellitus.	Endocrine Journal 66巻1号 P75-80 2019年1月	Original Article
29	Murakami Mariko, Nagai Yoshio, Tenjin Ayumi 他	代謝・内分泌内科	Proposed cut-off value of CA19-9 for detecting pancreatic cancer in patients with diabetes: a case-control study.	Endocrine Journal 65巻6号 P639-643 2018年6月	Original Article
30	Ishii Satoshi, Nagai Yoshio, Sada Yuki Yoshi 他	代謝・内分泌内科	Liraglutide Reduces Visceral and Intrahepatic Fat Without Significant Loss of Muscle Mass in Obese Patients With Type 2 Diabetes: A Prospective Case Series	Journal of Clinical Medicine Research 11巻3号 P219-224 2019年3月	Original Article
31	Nagai Yoshio, Nishine Ami, Hashimoto Eriko 他	代謝・内分泌内科	Efficacy and safety of switching from basal insulin to once-daily insulin degludec/insulin aspart in Japanese patients with inadequately controlled type 2 diabetes: A 4-week, randomized, open-label, treat-to-target study	Journal of Diabetes Investigation 9巻3号 P567-572 2018年5月	Original Article
32	Akazawa T, Watanabe K, Matsumoto M 他	整形外科	Modic changes and disc degeneration in adolescent idiopathic scoliosis patients who reach middle age without surgery: Can residual deformity cause lumbar spine degeneration?	Journal of Orthopaedic Science 23巻6号 P884-888 2018年11月	Original Article
33	Akazawa T, Kotani T, Sakuma T 他	整形外科	Modic changes and disc degeneration of non-fused segments 27 to 45 years after Harrington instrumentation for adolescent idiopathic scoliosis: Comparison to healthy controls	Spine (Phila Pa 1976) 43巻8号 P556-561 2018年4月	Original Article
34	Usuba Wataru, Urabe F, Yamamoto Y 他	腎泌尿器外科	Circulating miRNA panels for specific and early detection in bladder cancer.	Cancer Science 110巻1号 P408-419 2019年1月	Original Article
35	Yoko Fujita, Tomo Suzuki, Wei Han 他	腎臓・高血圧内科	A Case of Self-Limiting Crescentic Immunoglobulin A Glomerulonephritis Associated with Sternoclavicular Arthritis.	Case Rep Nephrol Dial 8巻3号 P246-252 2018年11月	Case report
36	Shu Ushimaru, Daisuke Ichikawa, Masahiko Yazawa 他	腎臓・高血圧内科	Tubulointerstitial Nephritis Associated with Enteritis and Sacroiliitis.	Internal Medicine 58巻1号 P79-84 2019年1月	Original Article
37	Wei Han, Tsutomu Sakurada, Rina Hachisuka 他	腎臓・高血圧内科	A case of cerebral infarction during a hemodialysis procedure successfully treated with recombinant tissue plasminogen activator	CEN Case Reports 7巻2号 P282-287 2018年11月	Case report
38	Masahiko Yazawa, Hideo Sasaki, Yuko Sakurai 他	腎臓・高血圧内科	Early post-transplant diagnosis of cytomegalovirus esophagitis in an ABO-incompatible kidney transplant recipients: a case report.	Transpl Infect Disease 20巻2号 2018年4月 (オンライン)	Case report
39	Kaori Kohatsu, Tomo Suzuki, Masahiko Yazawa 他	腎臓・高血圧内科	Granulomatosis With Polyangiitis Induced by Infection.	Kidney Int Rep 4巻2号 P341-345 2019年2月	Original Article

小計: 14

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
40	Tomo Suzuki, Naohiko Imai, Mikako Hisamichi 他	腎臓・高血圧内科	Can nutcracker phenomenon cause glomerular hematuria?	Nephrology (Carlton) 23巻5号 P495 2018年5月	Original Article
41	Shika Watanabe, Daisuke Ichikawa, Takeshi Sugaya 他	腎臓・高血圧内科	Urinary Level of Liver-Type Fatty Acid Binding Protein Reflects the Degree of Tubulointerstitial Damage in Polycystic Kidney Disease.	Kidney & Blood Pressure Research 43巻6号 P1716-1729 2018年11月	Original Article
42	Daisuke Ichikawa, Atsuko Kamijo-Ikemori, Takeshi Sugaya 他	腎臓・高血圧内科	Utility of urinary tubular markers for monitoring chronic tubulointerstitial injury after ischemia-reperfusion.	Nephrology (Carlton) 23巻4号 P308-316 2018年4月	Original Article
43	Naohiko Imai, Yugo Shibagaki.	腎臓・高血圧内科	The prevalence of dysnatremia in the elderly patients without CKD.	The American Journal of Emergency Medicine 37巻3号 P499-501 2019年3月	Original Article
44	Naohiko Imai, Kiyomi Osaka, Nagayuki Kaneshiro 他	腎臓・高血圧内科	Seasonal prevalence of hyponatremia in the emergency department: impact of age.	BMC Emergency Medicine 18巻1号 P41 2018年11月	Original Article
45	Tsutomu Sakurada, Hitoshi Kotake, Kenichiro Koitabashi 他	腎臓・高血圧内科	Subcutaneous Cuff Migrates After Initiation of Peritoneal Dialysis.	Peritoneal Dialysis International 38巻3号 P229-231 2018年5月	Original Article
46	Naohiko Imai, Kiyomi Osaka, Nagayuki Kaneshiro 他	腎臓・高血圧内科	Daily pill burden and pill burden from phosphate binders in Japanese dialysis patients: Single center study.	Saudi Journal of Kidney Diseases and Transplantation 30巻2号 P554-556 2019年3月	Case report
47	Michiho Sodenaga, Koji Hori, Kimiko Konishi 他	神経精神科学	Commentary: Over-Diagnosis and Under-Diagnosis of Alzheimer's Disease	Journal of Alzheimer's Disease & Parkinsonism 8巻5号 P449 2018年10月	Review
48	Miyairi Takeshi, Miyata Hiroaki, Chiba Kiyoshi 他	心臓血管外科	Influence of Timing After Thoracic Endovascular Aortic Repair for Acute Type B Aortic Dissection	The Annals of Thoracic Surgery 105巻5号 P1392-1396 2018年5月	Original Article
49	Matsuo Yasumasa, Yamamoto Hiroyuki, Sato Yoshinori 他	消化器・肝臓内科	GNAS-mutated carcinoma arising from gastric foveolar metaplasia in the duodenum after 9 years of observation	Critical Journal of Gastroenterology 11巻5号 P391-395 2018年10月	Case report
50	Matsuo Yasumasa, Yasuda Hiroshi, Kato Masaki 他	消化器・肝臓内科	Endoscopic small-capacity forceps increase the pathological diagnosis of gastric indefinite neoplasia	Turkish Journal of Gastroenterology 29巻4号 P481-487 2018年7月	Original Article
51	Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Morita Ryo 他	消化器・肝臓内科	Diagnostic Ability of Endoscopic Bile Cytology Using a Newly Designed Biliary Scraper for Biliary Strictures.	Digestive Diseases and Sciences 64巻1号 P241-248 2019年1月	Original Article
52	Ikeda Hiroki, Watanabe Tsunamasa, Shimizu Hirohito 他	消化器・肝臓内科	Efficacy of ledipasvir/sofosbuvir with or without ribavirin for 12 weeks in genotype 1b HCV patients previously treated with a nonstructural protein 5A inhibitor-containing regimen	Hepatology Research 48巻10号 P802-809 2018年9月	Original Article
53	Yasuda Hiroshi, Nakagawa Masatoshi, Kiyokawa Hirofumi 他	消化器・肝臓内科	Unique Biological Activity and Potential Role of Monomeric Laminin- γ 2 as a Novel Biomarker for Hepatocellular Carcinoma: A Review	International Journal of Molecular Sciences 20巻1号 P226 2019年1月	Review
54	Ikeda Hiroki, Watanabe Tsunamasa, Matsumoto Nobuyuki 他	消化器・肝臓内科	Daclatasvir and asunaprevir improves health-related quality of life in Japanese patients infected with hepatitis C virus	Journal of Gastroenterology and Hepatology Open 2巻3号 P87-92 2018年5月	Original Article
55	Kobayashi Shinjro, Segami Kohei, Hoshino Hiroyuki 他	消化器・一般外科	Risk factors for failure of early recovery from pancreatoduodenectomy despite the use of enhanced recovery after surgery protocols and a physical gincg score to predict postoperative risks	J Hepatobiliary Pancreat Sci 25巻4号 P231-239 2018年4月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
56	Kobayashi Shinjiro, Koizumi Satoshi, Hatori Takashi 他	消化器・一般外科	The Vertical Array Reconstruction Technique in Pylorus-Preserving Pancreatoduodenectomy	Digestive Surgery 35巻5号 P469-473 2018年8月	Original Article
57	Kawaguchi Kohei, Obayashi Juma, Kawaguchi Takuya 他	小児外科	The role of the ureteric bud in the development of the ovine fetal kidney	Journal of Pediatric Surgery 53巻12号 P2502- 2506 2018年12月	Original Article
58	Obayashi Juma, Furuta Shigeyuki, Kawaguchi Takuya 他	小児外科	The effect of the broad-spectrum antibiotics for prevention of postoperative intra-abdominal abscess in pediatric acute appendicitis	Pediatric Surgery International 34巻10号 P1121-1125 2018年10月	Original Article
59	Taichi Imaizumi, Akira Kumakura, Keiko Yamamoto-Shimajima 他	小児科	Identification of a rare homozygous SZT2 variant due to uniparental disomy in a patient with a neurodevelopmental disorder	Intractable & Rare Diseases Research 7巻4号 P245-250 2018年11月	Original Article
60	Kenzo Sakurai, Kazuhiro Takahashi, Mami Nakayashiro.	小児科	Combined Therapy of Flecainide and Sotalol for Multifocal Atrial Tachycardia in Cardio-facio- cutaneous Syndrome.	Pediatric International 60巻 11号 P1036-1037 2018年 11月	Case report
61	Tanabe Yasuhiro, Yamamoto Takeshi, Murata Teppei 他	循環器内科	Gender differences among patients with acute pulmonary embolism.	The American journal of cardiology 122巻6号 P1079-1084 2018年9月	Original Article
62	Okuyama kazuaki, Akashi Yoshihiro J.	循環器内科	Takotsubo syndrome: Changes in diagnostic criteria and role of nuclear imaging	Annals of Nuclear Cardiology 4巻1号 P101- 104 2018年8月	Review
63	Akashi Yoshihiro J.	循環器内科	Modification of diagnostic criteria in Takotsubo Syndrome	Argentine Journal of Cardiology 86巻2号 P79-81 2018年4月	Review
64	Okuyama Kazuaki, Izumo Masaki, Akashi Yoshihiro J.	循環器内科	Cardiogenic shock following balloon post-dilatation in transcatheter aortic valve implantation: first case report of all three stuck leaflets.	European Heart Journal Case Reports 2巻3号 P1-5 2018年9月	Case report
65	Warisawa Takayuki, Mitarai Takanobu, Doi Shunichi 他	循環器内科	Novel use of guideLiner with a low- profile balloon for the retrieval of disrupted balloon catheter.	International Heart Journal 59巻6号 P1454-1457 2018 年11月	Case report
66	Nakajima Ikutaro, Noda Takashi, Kanzaki Hideaki 他	循環器内科	Development of heart failure from transient atrial fibrillation attacks in responders to cardiac resynchronization therapy.	JACC: Clinical Electrophysiology 4巻9号 P1227-1234 2018年9月	Original Article
67	Yoneyama Kihei, Venkatesh Bharath A, Wu Colin O 他	循環器内科	Diabetes mellitus and insulin resistance associate with left ventricular shape and torsion by cardiovascular magnetic resonance imaging in asymptomatic individuals from the multi-ethnic study of atherosclerosis.	Journal of Cardiovascular Magnetic Resonance 20巻1 号 P1-10 2018年7月	Original Article
68	Suzuki Kengo, Hirano Yutaka, Yamada Hirotugu 他	循環器内科	Practical guidance for the implementation of stress echocardiography.	Journal of Echocardiography 16巻3号 P105-129 2018年9月	Original Article
69	Kotoku Nozomi, Ishibashi Yuki, Higuma Takumi 他	循環器内科	The impact of in-stent restenosis detected upon routine follow-up angiography after percutaneous coronary intervention with metallic stent.	Journal of St. Marianna University 9巻2号 P53-62 2018年12月	Original Article
70	Kaihara Toshiki, Imaizumi Yuki, Eguchi Kazuo 他	循環器内科	Maximum home blood pressure readings are associated with left atrial diameter in essential hypertensives.	Journal of human hypertension 32巻6号 P432-439 2018年6月	Original Article
71	Warisawa Takayuki, Cook Christopher M, Akashi Yoshihiro J 他	循環器内科	Past, present and future of coronary physiology.	Revista Española de Cardiología 71巻8号 P656- 667 2018年8月	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
72	Yodo Sugishita, Naoki Okamoto, Atsushi Uekawa 他	産婦人科	Oocyte retrieval after heterotopic transplantation of ovarian tissue cryopreserved by closed vitrification protocol	Journal of assisted reproduction and genetics 35巻11号 P2037-2048 2018年11月	Original Article
73	Tomoe Koizumi, Kazuko Nara, Tomoko Hashimoto 他	産婦人科	Influence of Negative Emotional Expressions on the Outcomes of Shared Decision Making During Oncofertility Consultations in Japan	Journal of Adolescent and Young Adult Oncology 7巻4 号 P504-508 2018年8月	Original Article
74	Miyazawa Tomoyuki, Marushima Hideki, Saji Hisashi 他	呼吸器外科, 臨床 再生組織工学, 分子 病理, 診断病理, 病理学	PD-L1 Expression in Non-Small-Cell Lung Cancer Including Various Adenocarcinoma Subtypes	Annual of Thoracic and Cardiovascular Surgery 25 巻1号 P1-9 2019年2月	Original Article
75	Saji Hisashi, Kojima Koji, Nakamura Haruhiko.	呼吸器外科, 臨床 再生組織工学	Improved lymph node staging in early-stage lung cancer in the national cancer database: commentary.	Journal of thoracic disease 10巻9号 P1092-1095 2018 年4月	Original Article
76	Saji Hisashi, Ueno Takahiko, Nakamura Haruhiko 他	呼吸器外科, 医学 情報学	A proposal for a comprehensive risk scoring system for predicting postoperative complications in octogenarian patients with medically operable lung cancer: JACS1303.	European journal of cardio- thoracic surgery 53巻4号 P835-841 2018年4月	Original Article
77	Isobe Yasushi, Uemura Yu, Uchida Akiko 他	血液・腫瘍内科	A portion of expanded granular lymphocytes cause pure white cell aplasia?	Annals of Hematology 97巻 10号 P1995-1997 2018年 10月	Original Article
78	Yukio Seki, Akiyoshi Kajikawa, Takumi Yamamoto 他	形成外科	The dynamic-lymphaticovenular anastomosis method for breast cancer treatment-related lymphedema: Creation of functional lymphaticovenular anastomoses with use of preoperative dynamic ultrasonography.	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery : JPRAS 72巻1号 P62-70 2019年1月	Original Article
79	Yukio Seki, Takumi Yamamoto, Akiyoshi Kajikawa.	形成外科	Lymphaticovenular anastomosis for breast cancer treatment-related lymphedema: Three-line strategy for an optimal outcome.	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery : JPRAS 71巻6号 P13-14 2018年6月	Others
80	Tsukuda Jumpei, Fujitani Shigeki, Morisawa Kenichiro 他	救命救急センター	Near-infrared spectroscopy monitoring during out-of-hospital cardiac arrest: Can the initial cerebral tissue oxygenation index predict ROSC?	Emergency medicine journal : EMJ 36巻1号 P33-38 2019年1月	Original Article
81	YOMODA R, SASAKI H, KOGO J 他	眼科	Comparative study of straight vs angled incision in 27-gauge vitrectomy for epiretinal membrane	Clinical ophthalmology 2018 巻12号 P2409-2414 2018 年11月	Original Article
82	SASE K, KITAOKA Y, TSUKAHARA C 他	眼科	Involvement of Beclin-1 in axonal protection by short-term hyperglycemia against TNF-induced optic nerve damage	Molecular Medicine Reports 18巻6号 P5455-5460 2018 年12月	Original Article
83	Shiono A, Kogo J, Sasaki H 他	眼科	Optical coherence tomography findings as a predictor of clinical course in patients with branch retinal vein occlusion treated with ranibizumab	PLoS One 13巻6号 P1-15 2018年6月	Original Article
84	Hiroyuki Kunishima, Kaoru Ito, Thomas Laurent 他	感染制御部	Healthcare burden of recurrent Clostridioides difficile infection in Japan: A retrospective database study.	Journal of Infection and Chemotherapy 24巻11号 P892-901 2018年9月	Original Article
85	Hiroumi Takemura, Toru Mochizuki.	感染制御部	Comparison between local and national epidemiology of antimicrobial resistance using the JANIS data	Journal of Infection and Chemotherapy 24巻11号 P868-872 2018年11月	Others
86	Kazuo Yudoh, Rie Karasawa.	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	Effects of low-level laser therapy on clinical characteristics and laboratory profiles in synovitis in patients with rheumatoid arthritis.	Nov Tech Arthritis Bone Res 2巻5号 P1-8 2018年4 月	Original Article

小計:15

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
87	Hanaoka H, Iida H, Kiyokawa T 他	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	Early achievement of deep remission predicts low incidence of renal flare in lupus nephritis class III or IV	Arthritis research & therapy 20巻1号 P86 2018年5月	Original Article
88	Hanaoka H, Iida H, Kiyokawa T 他	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	Mycophenolate mofetil treatment with or without a calcineurin inhibitor in resistant inflammatory myopathy	Clinical rheumatology 38巻2 号 P585-590 2019年2月	Original Article
89	Uchida Marina, Ooka Seido, Goto Yutaka 他	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	Anti-IL-10 antibody in systemic lupus erythematosus	Dovepress 2019巻11号 P61-65 2019年3月	Original Article
90	Hanaoka H, Iida H, Kiyokawa T 他	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	Low additive effect of hydroxychloroquine on Japanese patients with systemic lupus erythematosus taking calcineurin inhibitor.	International Journal of Rheumatic Diseases 22巻3 号 P468-472 2019年3月	Original Article
91	Hanaoka H, Iida H, Kiyokawa T 他	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	A positive direct Coombs' test in the absence of hemolytic anemia predicts high disease activity and poor renal response in systemic lupus erythematosus	Lupus 27巻14号 P2274- 2278 2018年12月	Original Article
92	Hanaoka H, Iida H, Kiyokawa T 他	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	Renal protective effect of antiplatelet therapy in antiphospholipid antibody-positive lupus nephritis patients without antiphospholipid syndrome	PloS One 13巻5号 2018年5 月(オンライン)	Original Article
93	Asari Yusa, Yamasaki Yoshioki, Tsuchida Kosei 他	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	Hemodynamic heterogeneity of connective tissue disease patients with borderline mean pulmonary artery pressure and its distinctive characters from those with normal pulmonary artery pressure: a retrospective study	Clinical rheumatology 37巻 12号 P3373-3380 2018年 12月	Original Article
94	Yu Sunakawa, Dongyun Yang, Shu Cao 他	腫瘍内科	Immune-related genes to dominate neutrophil-lymphocyte ratio (NLR) associated with survival of cetuximab treatment in metastatic colorectal cancer	Clinical Colorectal Cancer 17巻4号 P741-749 2018年 12月	Original Article
95	Hiroyuki Arai, Yu Sunakawa, Takako Eguchi Nakajima.	腫瘍内科	Co-operative groups in the development of chemotherapy for gastric cancer. (Review Article (Invited))	Japanese Journal of Clinical Oncology 49巻3号 P210-227 2019年3月	Original Article
96	Ohta Yuki, Takenaga Mitsuko, Hamaguchi Akemi 他	治験管理室	Isolation of adipose-derived stem/stromal cells from cryopreserved fat tissue and transplantation into rats with spinal cord injury.	International journal of molecular sciences 19巻7 号 P1963 2018年7月	Original Article
97	Kobayashi Yasuyuki, Ishibashi Maki, Kobayashi Hitomi	画像センター	How will "democratization of artificial intelligence" change the future of radiologists?	Japanese Journal of Radiology 37巻1号 P9-14 2019年1月	Original Article

小計11
合計:97

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院にお ける所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
----	-------	---------------------------	----	---------------	------

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	山本博幸, 渡邊嘉行, 辻頭介 他	消化器・肝臓内科	大腸腫瘍の分子生物学とは。一臨床 医が理解するための基本	INTESTINE 22巻5号 P403- 413 2018年9月	Review
2	山本博幸, 渡邊嘉行, 及川律子 他	消化器・肝臓内科	肝胆膵疾患のエピジェネティクスを学 ぶ, 肝疾患のエピジェネティクス, HBV 挿入ゲノムのメチル化と発癌	肝胆膵 76巻5号 P873-879 2018年5月	Review
3	大迫希代美, 今井直彦	腎臓・高血圧内科	【ここさえ分かれば-輸液・水・電解 質】体液調節 利尿薬抵抗性	Medicina 55巻7号 P976- 981 2018年6月	Review
4	橋本瑛理子, 永井義 夫, 小尾竜正 他	代謝・内分泌内科	高速液体クロマトグラフィー測定 のHbA1c値と血糖値との乖離により異 常ヘモグロビンHb Montfermeil [β 130(H8) Tyr→Cys]と判明した1例	糖尿病 62巻1号 P31-36 2019年1月	Case report
5	小林慎二郎, 大坪毅 人, 小泉哲	消化器・一般外科	特集 腹部外傷の手術手技 脾損傷の手術	手術 73巻2号 P147-152 2019年2月	Review
6	瀬上航平, 小泉哲, 井 田圭亮 他	消化器・一般外科	正常肝を背景として副肝葉から発生 した肝外発育型肝細胞癌の1症例	Liver Cancer 44巻24号 P35-37 2018年11月	Case report
7	榎本 武治, 民上 真也, 喜多島美奈 他	消化器・一般外科	胃癌術後肝転移再発に対してS- 1+CDDPおよびS-1療法が奏功した1 例	癌と化学療法 45巻4号 P658-660 2018年4月	Case report
8	佐々木秀郎, 吉池美紀, 関根美紀 他	腎泌尿器外科学	腎移植患者におけるリアルタイム PCR法を用いた血中Epstein-Barr Virus定量の試み	日本臨床腎移植学会雑誌 6巻2号 P192-195 2018年8 月	Original Article
9	畑中康志, 大森みかよ, 石田翔也 他	リハビリテーション 部	橈骨遠位端骨折後掌側ロッキングブ レート固定術施行患者の機能的因子 による患者満足度の判別基準と判別 可否の割合	日本ハンドセラピー学会誌 11巻1号 P14-18 2018年12 月	Original Article

小計:9
合計:9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 1. 目的および適用範囲、2. 定義、3. 倫理審査委員会、3.1. 倫理審査委員会の審査研究、3.2. 倫理審査委員会の構成員、3.3. 倫理審査委員会の成立要件、4. 審査の種類、4.1. 通常審査、4.2. 迅速審査、5. 審査手順、5.1. 審査申請、5.2. 審査準備、5.3. 審査、5.4. 審査結果、5.4.1. 審査結果の種類、5.4.2. 審査結果決議、5.4.3. 審査結果通知、6. 現状報告、7. 研究計画の変更、8. 研究中止または終了、9. 秘密情報、10. 教育・研修、11. 事務担当者の責務、11.1. 事務担当者の業務	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年5回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義や管理委員会の管理基準、審査方法等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

<p>① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況</p>	<p>コース1：年15回 コース2：年15回 コース3：年15回 コース4：年15回 コース5：年15回</p>
<p>・研修の主な内容</p> <p>【コース1】</p> <p>・わかりやすい臨床試験の計画と実施、日本における初めての臨床研究（比較試験）、どのような研究が該当するか？、医学研究におけるスキャンダルの歴史、医療倫理の四原則（自律尊重、無危害、善行、正義）の提唱、ヘルシンキ宣言、同意説明文の記載内容（平易な言葉）、「アンケート」についての追記、倫理審査委員会、申請から倫理審査・承認まで、研究者の責務、研究チームを作る、医薬品等の開発の流れと申請・承認・その後の安全管理の流れ、新薬の開発過程、非臨床試験、治験（ヒトに投与開始・第I相～IV相）、PMDA、医薬品開発の臨床試験の実施基準、医師主導型治験</p> <p>【コース2】</p> <p>・臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、どんな臨床研究が素晴らしいか？、研究デザインと根拠の強さ-科学的根拠の質の分類-、研究デザインの分類、臨床試験の王様、エッセ通いのケースレポート、エッセ通いのケースシリーズ、治療しない人たちはどうなるか？、無作為化コントロール試験・ランダム化比較試験、盲検化（マスク）・二重盲検化とは？、プラセボの必要性、エラーとバイアス、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由：「出版バイアスの防止」、バイアスを減らす努力(1)～(3)、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由：「出版バイアスの防止」、臨床研究における大切な区別(その1、2)、侵襲、軽微な侵襲、軽微な侵襲の実例1～2、介入研究、同意取得、データの保管、試料・情報の保管方法、既存資料・情報、既存資料・情報の同意の手続き、モニタリング・監査、「適応外使用」などについての考え方、未承認薬などを使う時の現実的問題、未承認薬を使用する場合・適応外使用をする場合、未承認の手技を導入する場合・高難度の手技を導入する場合、個人情報保護法と匿名化について</p> <p>【コース3】</p> <p>・個人情報とプライバシー、用語の解説1、医学研究に大切な用語の説明1、動作も個人識別符号、医学研究に大切な用語の説明1、用語の説明2、「匿名加工情報」書き直し、個人情報の保護に関する法律、「研究」は特別扱いされている！、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、観察研究の典型であるレジストリー研究を考える、頭の中で考えること、介入研究と観察研究の違い、有害事象について、有害事象の定義、有害事象と重篤な有害事象、「重篤な有害事象」の定義、「重篤」は「重症度」と一致しない、有害事象に対する対応、試験開始前までに行う準備、試験薬（治験薬）との因果関係判定基準、試験薬（治験薬）との因果関係、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ：「有害事象が発生したら・・・」、資料の保管とSDV、SDVの実際（治験の例）、資料保管、臨床研究法施行について【特定臨床研究】、臨床研究法施行に際して重要なこと、Conflict of Interest について、ゲルシンガー事件にみる深刻な利益相反状態、利益相反の開示、COIの報告義務、公益通報、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究（比較試験）</p> <p>【コース4】</p> <p>・生命倫理委員会申請書作成、生命倫理委員会（臨床試験部会、ヒトゲノム・遺伝子解析研究部会）への審査申請について、臨床研究とは、研究デザインの分類、臨床試験(trial)の分類、臨床研究を規制するルール、申請対象者、臨床試験部会等開催日程、申請書類入手の実際の手順、審査申請書、「臨床試験に関する申請手順書」のリンクの下にあるファイル、「各種報告書様式」のリンクの下にあるファイル、研究計画書、患者同意説明文、迅速審査、通常診療によって得られた診療情報</p>	

を用いる観察研究、報告書作成、その他（お問合わせ先）

【コース5】

- ・資料「臨床試験登録を教材とした臨床研究学習用プロトコール」に基づき「臨床試験登録WS用フォーム」を使用したワークショップの開催(回答及び解説含む)。

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学には、後期研修プログラムとして「任期付助教」と「大学院」の2つのコースが設けられている。

「任期付助教」は、3～5年間で専門分野の研修を行うが、特に内科学9分野・外科学5分野については、細分化された研修に入る前の前半2～3年間で各分野をラウンドする内容となっており、広汎な疾患を経験した後で各専門領域の研修を行うことができる。

任期付助教終了後は専門医の申請が可能であり、またこの期間は本学の規定により研究歴として加算されるため、学位申請も可能となっている。

一方、「大学院」は指導教授の指導のもと4年間学術研究を行い、その研究成果を取りまとめ提出、学内の最終審査に合格すれば博士(医学)の学位が取得できる。

なお、大学院学生の身分を有しつつ「診療助手」として病棟・外来の診療業務につくことが出来る制度があり、大半の大学院学生は研究に専念する期間以外にも自分の目指す臨床分野の後期研修を行っており、このコースでは、学位取得と同時に専門医の取得も可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	249人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松田 隆秀	内科	部長	39年	
峯下 昌道	呼吸器内科	部長	33年	
明石 嘉浩	循環器内科	部長	23年	
伊東 文生	消化器・肝臓内科	部長	36年	
柴垣 有吾	腎臓内科	部長	26年	
田中 逸	代謝・内分泌内科	部長	33年	
長谷川 泰弘	脳神経内科	部長	39年	
新井 文子	血液内科	部長	31年	
川畑 仁人	リウマチ科	部長	27年	
中島 貴子	腫瘍内科	部長	21年	
古茶 大樹	神経精神科	医長	29年	
清水 直樹	小児科	部長	29年	
大坪 毅人	消化器外科	部長	33年	
宮入 剛	心臓血管外科	部長	36年	
佐治 久	呼吸器外科	部長	24年	
古田 繁行	小児外科	部長	23年	
津川 浩一郎	乳腺・内分泌外科	部長	32年	
田中 雄一朗	脳神経外科	部長	36年	
仁木 久照	整形外科	部長	28年	
梶川 明義	形成外科	部長	35年	
門野 岳史	皮膚科	部長	27年	
菊地 栄次	泌尿器科	部長	25年	
鈴木 直	産婦人科	部長	28年	
高木 均	眼科	部長	32年	

肥塚 泉	耳鼻咽喉科	部 長	38年	
三村 秀文	放射線科	部 長	32年	
井上 莊一郎	麻酔科	部 長	26年	
小池 淳樹	病理診断科	部 長	28年	
藤谷 茂樹	救急科	部 長	29年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数 該当無し・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 北川 博昭	
管理担当者氏名	事務部長 根津 保廣	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務部管理課
		各科診療日誌	事務部管理課
		処方せん	薬剤部、IT戦略推進室、診療記録管理室
		手術記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		看護記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		検査所見記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		エックス線写真	IT戦略推進室、診療記録管理室
		紹介状	IT戦略推進室、診療記録管理室
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	IT戦略推進室、診療記録管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事部人事課
		高度の医療の提供の実績	事務部管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部管理課
		高度の医療の研修の実績	事務部管理課
		閲覧実績	事務部管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務部管理課、薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	事務部管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	人事部人事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 クリニカルエンジニア部
		管理者が有する権限に関する状況	総務部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法務・監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	1) 診療記録管理室長 信岡祐彦	2) 事務部長 根津保廣
閲覧担当者氏名	1) 診療記録管理室主幹 諸戸真由美	2) 管理課長 草薨拓也
閲覧の求めに応じる場所	1) 診療記録管理室 2) 事務部管理課	
閲覧の手続の概要		
(1) 診療記録関係は、診療記録管理室 診療記録の閲覧は、「附属病院における診療記録管理規程」に基づき行っている。 診療記録の開示は、「附属病院における診療情報に関する開示規程」に基づき行っている。 「診療記録等開示申請書」による申請時に請求者確認を身分証等で行い、主治医、診療部長、 病院長等に許可申請を行い、決裁後に提供を行っている。		
(2) (1) 以外は、事務部管理課		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的考え方 2. 用語の定義 3. 委員会、体制 4. 職員研修 5. 報告制度 6. インシデント・アクシデント・合併症の診療記録記載 7. 重大事故等発生時の対応 8. 医療事故調査制度支援センターへの報告 9. 患者からの相談への対応 10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有 11. マニュアルの整備 12. 指針の改訂 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全統括会議 <p>開催状況：年12回 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理に係る基本方針、管理体制に関すること (2) 医療安全対策、推進、教育に係る立案とその実施 (3) 院内死亡事例の検討 (4) アクシデント、合併症事例の検討 (5) 安全管理にかかわる職員への周知、研修に関すること (6) 安全管理のため立案された改善策の実施状況の調査、見直しに関すること (7) 医療安全に係る各部門、各委員会からの報告事項の検討と承認 (8) 病院長からの諮問事項に関すること (9) その他、医療安全の推進に関すること 2. セーフティマネジメント委員会： <p>開催状況：年12回 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故等の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 (2) マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 (3) 医療安全管理の推進に関する事項 (4) その他セーフティマネージャーの業務に関する事項 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 92 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回医療安全職員研修会「医療安全推進の取り組み」 2. 第2回医療安全職員研修会「医療安全の日シンポジウム」 3. K Y T（基礎編）研修会 8回 4. K Y T（実践編）研修会 2回 5. 新入職オリエンテーション医療安全研修 6. 研修医オリエンテーション医療安全研修 7. 平成29年度6点未満者対象研修 	

8. 中途入職者研修（新採用者・復職者・異動者）70回
9. 新セーフティマネージャー対象研修
10. 新人看護師研修
11. 管理者対象研修
12. 研修医のための医療安全講習会

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

手術室での異型輸血防止

【概要】

同じ手術室で当日2件の手術が組まれていた。2件目の手術施行中、1件目の手術患者の電子カルテが開かれていた状態であった。医師は、開いている電子カルテが2件目の患者のカルテだと思い込んで、患者氏名を確認しないまま輸血をオーダーした。手術室内で麻酔科医、外回り看護師2名で輸血伝票と輸血製剤の氏名、血型、有効期限を確認し、患者に投与した。翌日異型輸血が発覚した。

【実施した内容】

1. 手術が終了した時点で、電子カルテをログオフして退室する（麻酔科医が行う）。麻酔器近くの電子カルテに自動ログオフ機能を付けた。
2. 麻酔科管理の手術患者は、全員ネームバンドを切って患者カルテに貼り、麻酔科がカルテを管理する。
3. 輸血を受け取った場合、ネームバンドで確認する。
4. 皮切前タイムアウト時に、外科医が必ず血液型を呼称し血液型のカードを外回り看護師が点滴棒に掛ける。麻酔科医は患者カルテの手術部門システムで確認する。
5. 輸血投与時は医師、看護師でのダブルチェック、手術部門システムで患者氏名、血液を確認し、輸血実施時にバーコードを読み込み実施登録を行う。

【効果（効率的、効果的となったと思われる内容）】

1. 患者退室時は必ず、電子カルテをログオフしている。
2. 皮切前のタイムアウト時に、血型の呼称と血型カードの提示を行い、多職種で確認を行っている。

【現状の問題点】

1. ネームバンドを切ると災害時に患者確認ができないという問題点があり、関連部署間で再度検討を実施した。

【対策】

1. 輸血実施時や患者入室時にネームバンド、シールバーコード、持参カルテ、電子カルテで確認の徹底を図っている。

RRS運用の推進

【概要】

左尿管がんにて左腎尿管摘出術後4日目。既往に心房細動があり、ヘパリン投与中。術後3日目より腹痛の訴えあり。血圧は70～80台であった。
 0：20 疼痛軽減せず、医師の指示にて鎮痛剤投与。血圧70～80台、冷汗、尿量低下あり。下肢挙上にて対応した。
 1：40 当直医師診察。せん妄と判断。鎮痛剤処方にて対応していた。
 2：33 トイレで排便後、血圧が50台まで低下したが、下肢挙上にて血圧、意識回復。報告を受けた当直医師は、迷走神経反射を疑い、経過観察とし、診察は行わなかった。
 朝になりチーム担当医師に報告しCTが施行し、後腹膜血腫、血管外漏出あり、ICUへ移動した。輸血、IVRを施行した。

【実施した内容】

1. チームステップスを周知するために動画を撮影し、周知を図ることにした。

【効果（効率的・効果的となったと思われる内容）】

1. 当該病棟ではRRS起動に関しては看護師が躊躇なく起動できるようになってきた。
2. 作製した動画に関しては、研修医入職時オリエンテーションで使用し、教育を行っている。
3. セーフティマネージメント委員会で使用し、周知を図る予定である。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は次の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂（最終改訂 2017年7月18日） 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容：毎月感染委員会が開催されている。委員長は感染制御部部長で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理診断科、事務（施設、人事など）の職員で構成されている。議題の主な内容は次の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関する事、2. 院内感染・アウトブレイクの発生の要因及び対応に関する事、3. 滅菌及び消毒に関する事、4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関する事、5. 原因微生物別感染防止対策に関する事、6. 用途別、菌種別消毒薬に関する事、7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関する事、8. 感染症報告書に関する事、9. 労働災害上の感染措置及び取扱いに関する事、10. 院内感染防止のための検査に関する事、11. 環境微生物検査に関する事、12. 感染性廃棄物の適正処理に関する事、13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関する事、14. 病院長からの諮問事項に関する事、15. その他、感染防止に関する事。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 25 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の内容（すべて）：全職員対象の研修会を年3種類開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、看護師を対象にした講習（コース）、院内清掃業者等を対象にした講習などを合計すると年間25回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価 感染防止の推進に関する事項 ※平成30年度研修会（全職員対象）内容：「チームで取り組む感染対策」（第1回感染対策研修会）、「感染対策！今、私たちにできていないこと、できること」「抗微生物薬適正使用支援チームの活動について」（第2回感染対策研修会）、「感染対策-私たちの責任として、文化として-」（第3回感染対策研修会） 【対象者別で行った講演会】「院内感染防止対策について」、「標準予防策の技術について」、「感染看護MENコース」、「SSI学習会」、「院内清掃と感染対策」等 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） <ol style="list-style-type: none"> 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。 毎月部署毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。 部署毎の抗菌薬使用状況を集計して報告している。 サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。 その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 抗MRSA薬・カルバペネム薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認） 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。 ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況		有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		年 15 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>平成30年度 医薬品安全使用のための研修会実績 薬剤部</p>		
研修日	研修内容	参加者
4月6日	看護師オリエンテーション 医薬品に関して	看護師 157名
4月9日	研修医オリエンテーション 医薬品に関して	医師 41名
随時	中途入職者研修 医薬品に関して	医師 43名 薬剤師 5名 看護師 25名
4月25日	別館2南病棟 新人看護師勉強会	看護師 2名 薬剤師 1名
6月15日	新人看護師技術研修(安全な与薬、薬剤師の立場から)	薬剤師 5名 看護師 152名
6月15日	麻薬(オピオイド)勉強会	看護師 11名
6月26日	薬剤師オリエンテーション リスクマネジメントについて	薬剤師 11名
6月28日	プラケニル減感作療法について	医師 2名 薬剤師 1名 看護師 20名
6月29日	別7南 新人看護師勉強会 ステロイド	薬剤師 1名 看護師 15名
7月5日	医療安全における医薬品取り扱いの 注意点	医師 3名 薬剤師 20名 看護師 20名
8月30日、 9月27日	5南病棟新人看護師勉強会	看護師 8名
2月1日	8西病棟がん性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬	薬剤師 2名 看護師 5名
3月12日	8西病棟オピオイド勉強会	薬剤師 3名 看護師 8名
3月20日	医薬品安全講習会	薬剤師 35名 看護師 93名

3月29日 7北勉強会 麻薬について

薬剤師2名 看護師9名

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有・無)
- ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：
 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修
 医薬品安全管理に関する定期巡回を年3回実施
 その回ごとに重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する
 手順書に基づく業務の実施状況の確認

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

	医薬品・医療機器名	診断名
未承認	硫酸アトロピン点眼 0.25%	内斜視、遠視、williams 症候群
適応外	セプラフィルム	三尖弁閉鎖症、大動脈狭窄症術後、肺動脈絞扼術後
	プラケニル錠	全身性エリテマトーデス
	Vertaplex(骨セメント製剤)	骨粗鬆症性圧迫骨折後の治癒不全症例
	パルミコート吸入液 0.5mg	頸部食道癌 ESD 後の食道狭窄予防
	レボフロキサシン注	マクロライド耐性マイコプラズマ肺炎
	オレンシア点滴静注	原発性免疫不全症候群(CTLA4 ハプロ不全症)
	セルセプトカプセル	悪性リンパ腫再発、造血幹細胞移植後慢性 GVHD
	ノボセブンHI静注用 2 mg	肝被膜下血腫、出血性ショック、DIC
	オクトレオチド皮下注	先天性高インスリン血症
	アドセトリス点滴静注用	再発 CD30 陽性ホジキンリンパ腫
	エンブレル皮下注 25 mgシリンジ	アデノシンデアミナーゼ 2 (ADA2) 欠損症
	ASSURANT COBALT ステント	ファロー四徴症、肺動脈閉鎖心内修復術後 右室流出路狭窄、左肺動脈狭窄

ドブタミン注	重症うつ血性心不全、虚血性心筋症、末梢循環不全、ドブタミン依存状態
サイラムザ点滴静注液(ラムシルマブ)	肝細胞癌
メトレキサート注	眼内悪性リンパ腫
ミダゾラム注	重症筋無力症 挿管管理中の鎮静目的で使用(禁忌使用)
エパデール S カプセル	超低出生体重児 早産児 胆汁うっ滞 短腸症候群
パクリタキセル注	乳癌骨髄転移
プールシンチ注	胃癌 たんぱく漏出性胃癌疑い
オレンシア点滴静注 250 mg	原発性免疫不全症候群(CTLA4 ハプロ不全症)(他院より継続処方)
無水エタノール	腎動静脈奇形
ベリナートP	羊水塞栓症
Mitra Clip	高度僧帽弁閉鎖不全症
ブロムヘキシシン錠 4 mg	胆管内乳頭状腫瘍

その他の改善のための方策の主な内容：

薬剤部内に医薬品情報室を設置し、PMDA、DSU、海外文献、学会誌、DRUGDEX、大学図書館、製薬会社より最新情報を入手し、DIニュース、院内メール、病棟担当薬剤師等により情報提供を行っている。緊急安全性情報等の特に重大な情報に関しては、閲覧リストを提出することで周知の確認を実施している。また院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知している。
-IT戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。

2018年度

・病棟等各部署に医薬品安全管理担当者を配置し、担当薬剤師と共に医薬品管理等についての、教育、指導、監督を行うこととした。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 80 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 特定8機種の内院内にある7機種2回/年行っている。 全職員を対象とした医療機器の安全使用に関する研修1回/年 新人研修医に対する研修1回/年 新人看護師に対する研修1回/年 救命センターにローテーションできた医師に基本的な機器の操作の研修 病棟で使用している機器の取り扱い研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 基本的には電気的安全性試験、動作試験は全ての機器で行う。 輸液ポンプやシリンジポンプなど薬液の注入や血液ポンプなどは精度試験を行う。 生体情報モニタなど信号の表示などを行う機器はシュミレータを使用し表示値の読み取りを行う。 透析装置や人工呼吸器などメーカー指定の講習会に出席し定期的な部品交換を行う。 画像関連や大型の装置はメーカーの保守契約を結んで日程を調整している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 無 医療機器の機種をなるべく少なくする。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の機種を可能な限り絞り込む。 PMDAよりの回収情報のレベルⅠ、Ⅱに関し院内の状況を調べ医療機器関連のサーバーに表示し全職員に更新したことをメールしている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>【統括の方法】 ・医療安全管理室に会議や業務の合間に立ち寄り、スタッフに声を掛け、指示を出す。必要時、管理者への報告を行う。できない場合は、室長や専任医師等に指示を出し、統括を図っている。 ・ワーキンググループ等にも可能な限り参加している。</p> <p>【医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品及び医療機器安全管理責任者との連携の方法】 ・定期的な協議の場がある。また、必要時、その都度、審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（13名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>IT 戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。</p> <p>【各種情報の整理】</p> <p>緊急安全性情報、安全性情報、添付文書改訂のお知らせ等が発出された場合、以下のように分類する。</p> <p>①緊急安全性情報 ②安全性情報 ③それ以外で特に職員への周知が必要と考えらえる情報 ④その他</p> <p>①～③については書面にて対象薬剤を使用する部署の職員に周知を行う。①～③のうち特に重要な情報については、カンファレンス、看護師対象勉強会を通して薬剤師が周知する。特に重要と判断した情報は定期的にリマインドする。</p> <p>①～③の情報について書面にて情報の周知を行った際、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、MUEを実施し情報伝達内容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>①～③の情報を指名された薬剤師が把握した場合は、医薬品安全管理責任者名で院内に発出する。また、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、医薬品安全管理責任者の指示でMUEを実施し情報伝達内</p>	

容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

【処方した医薬品が未承認等に該当するか否かの把握】

薬剤師が、調剤、外来指導、病棟業務等において未承認等医薬品の使用を把握した際には、適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、薬剤管理指導記録に記録し、情報管理部門より上記記録の抽出データを得て、医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が使用状況を把握・確認する。又は医師からの申請により把握する。

【リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】

医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて、重篤度、有用度を評価することで、処方の妥当性について確認する。必要に応じて、処方した医師等に対して処方の必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無を確認する。

【処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】

医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、重篤度、有用度が低い分類であった場合、薬剤部の小委員会で評価を行い、使用の可否について診療科の長に評価の結果を基に意見を伝え、必要な場合は処方提案、生命倫理委員会への申請など指導を行う。

・担当者の指名の有無 (有 ・ 無)

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部，職種 薬剤師) (所属：薬剤部，職種 薬剤師)

(所属：薬剤部，職種 薬剤師) (所属： ， 職種)

(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)

(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有 ・ 無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有 ・ 無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
：遵守状況の確認

①インフォームドコンセントに用いる説明・同意文書に関する確認

診療記録管理委員会の下部組織である説明・同意検討部会で、説明・同意文書の書式を一括

管理している。新規作成文書については、説明・同意検討部会の審査で承認を得たものを使用可としている。院内共通書式でない既存の文書については、書式の統一化に努めている。

② インフォームドコンセントに関する記載内容等の確認

診療記録管理委員会で、診療記録・電子カルテへの記載内容の点検に関する協議を行い、下部組織である診療記録評価部会で、記載内容の監査を実施している。

: 指導の内容

- ① 記載内容の評価結果を取りまとめ、診療記録管理委員会や管理運営会議等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。
- ② 電子カルテ上で、患者ごとのインフォームドコンセントに関する記事を一括表示出来るよう「インフォームドコンセント」のタイトル入力と、記入漏れをなくするためのテンプレート使用を指導している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

: 記載内容の確認

- ① 診療記録等の作成状況を日々確認し、記載不備に関しては、その都度、記載医師や看護師等に記載完了または修正を促す。
- ② 退院時要約は、担当医が作成し、主治医が確認、診療部長が承認する。診療録の管理者は病院全体の作成状況を把握し改善に努めている。未作成の場合は督促を行う。
- ③ 「診療記録監査実施要綱」に基づき、診療記録監査を適宜実施し記載内容の確認を行っている。

: 指導の内容

- ① 監査の評価結果を診療記録管理委員会や管理運営会議等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。
- ② 全職員対象に診療記録記載について講演会等を開催し周知を図っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・ 所属職員：専従（15）名、専任（2）名、兼任（5）名
 うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（2）名
 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名

医療安全管理室に専従の医師（平成31年度までは専任2名）、薬剤師及び看護師の医療安全管理者を配置

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. 推進担当に関する業務

- (1) 全死亡事例の検証
- (2) インシデント、アクシデント、合併症、手術室バリエーションの収集分析
- (3) 重大事故発生時の対応
- (4) 医療事故調査制度への報告
- (5) 安全な医療の実施状況確認のための院内ラウンド及び教育指導
- (6) 医療安全に係る職員研修の企画、実施
- (7) 診療内容のモニタリング：PE/DVT発生件数、発生率
- (8) その他医療安全の推進に関すること

2. 危機管理に関する業務

- (1) 患者相談窓口寄せられる苦情の受付及び対応
- (2) 医療行為に基づく有害事象に対する対応
- (3) 重大事故に対する対応
- (4) 紛争事例に対する対応
- (5) 院内で発生した事件、事故に対する対応
- (6) その他の院内危機管理に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：

当該医療技術の提供の申出があった場合、当該申請の内容の確認と適否。実施の確認。技術の適否に

ついて決定し、病院長、診療科の長に対し結果を通知。実施5例までは、手術記録、診療記録等の提出を求め、記載内容を確認し当該技術について、適正な手続きに基づいて提供されていたか確認。術後の患者が死亡した場合、その他必要な場合にも確認を行っている。実施5例を超えた技術については、半期ごと症例の提出を求め実施状況の確認を行っている。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等（適応外使用申請を含む）を用いた医療の申請件数（ 25 件）、及び許可件数（ 23 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 未承認新規医薬品・医療機器の使用条件を定め、使用の適否を決定する
 - (2) 診療科の長から、未承認新規医薬品・医療機器使用申請を受ける
 - (3) 未承認新規医薬品・医療機器評価委員会（以下「評価委員会」という）を設置し意見を求める
 - (4) 次条に規定する「未承認新規医薬品・医療機器評価委員会規程」に基づき、未承認新規医薬品・医療機器使用患者の診療録等の記載内容を定期的に確認し、適正な手続きに基づく使用であるか否かを確認する。また、使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合にも同様に確認する
 - (5) 評価委員会の決定事項及び4項の内容について病院長に報告する
 - (6) 評価委員会の決定事項を診療科の長に通知する
 - (7) その他未承認新規医薬品・医療機器に関すること
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 1,135 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実事及

び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 185 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- (1) 医療安全管理に係る基本方針、管理体制に関すること
- (2) 医療安全対策、推進、教育に係る立案とその実施
- (3) 院内死亡事例の検討
- (4) アクシデント、合併症事例の検討
- (5) 安全管理にかかわる職員への周知、研修に関すること
- (6) 安全管理のため立案された改善策の実施状況の調査、見直しに関すること
- (7) 医療安全に係る各部門、各委員会からの報告事項の検討と承認
- (8) 病院長からの諮問事項に関すること
- (9) その他、医療安全の推進に関すること

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：順天堂大学附属順天堂医院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：順天堂大学附属順天堂医院）・無）

・技術的助言の実施状況

- ① PE、DVT の院内発生件数を「医療現場のモニタリング」として設定しており、報告プロセスが確立している。今後は「管理目的」か「改善目的」かを明確にし、早急に結果を実行に移していただきたい。
→現在、周術期と神経精神科患者の下肢を含む身体拘束時の血栓予防対策を実施している。昨年度、診療録から PE、DVT 発生について調査した結果、内科系診療科において、外科系よりも多く発生していることを確認した。改善目的として、PE、DVT 発生件数・発生率のモニタリングを行い、現状や推移を評価し、予防・早期診断・治療の改善につなげていく。
- ② 医療安全文化の調査を全職員対象に実施されているが、調査結果はリーダーへの報告となっている。今後は結果内容も全スタッフへフィードバックし、さらなる医療安全文化の構築を行っていただきたい。
→昨年度実施した医療安全文化の調査結果を、intra net の「患者安全へのあゆみ」にアップした。また、「患者安全へのあゆみ（年報）」にも掲載している。結果の推移を評価し、医療安全統括会議、セーフティマネージメント委員会で伝達するとともに、職員への周知を図った。
- ③ 患者の安全確保のために各部署での取り組みは実施されているが、院内でその内容はそれぞれであり、ルールが統一化されていなかった。今後は、統一化・明文化を推進いただきたい。

→平成 31 年度の医療安全マニュアルにおいて、基本理念と基本方針、平成 31 年度の重要目標（患者安全目標）、総論、各論を定め、院内の統一ルールを明確にし、職員ハンドブックに明文化した。明文化した内容を周知し、医療安全活動を推進していく。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

〔医療安全管理室に患者相談窓口を設置〕

- ・相談員として、職員（管理職）2名、嘱託3名（うち2名は警察OB）、パート（フルタイム）1名の事務職を配置している。
- ・医療安全に関する相談については、医療安全管理室合同カンファレンス等医療安全管理室全体で共有してすすめている。
- ・医事紛争事案については、弁護士、損保会社との連携窓口としている。
- ・業務内容は「患者相談窓口規程」に記載の業務。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

※別紙参照（平成 30 年度 職員研修会開催状況 研修内容と職種受講人数）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者

【研修内容】平成 30 年度特定機能病院管理者研修

【研修時期】平成 31 年 1 月 21 日・22 日

【主催者名】公益財団法人 日本医療機能評価機構

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

平成30年度 職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講人数

令和元年度7月3日更新

1) 全職員対象

回数・内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
第1回 医療安全推進の取り組み	本講演: 7/5 (17:30~18:30) safetyplus配信期間 (7/19~1/31)	自治医科大学附属さいたま 医療センター 医療安全・渉外対策部 亀森 康子先生	全職員	593	1,171	403	545	2,712
第2回 医療安全の日シンポジウム	本講演: 11/27 (17:30~18:30) safetyplus配信期間 (12/17~ 2/28)	山田 浩史先生 (医療安全管理室専任医師) 田邊 康宏先生 (循環器内科) 渡邊 真真先生 (ハートセンター北病棟) 瀬上 航平先生 (医療安全管理室専任医師)	全職員	588	1,181	386	521	2,676
KYT研 修会 基礎編	2018/5/24.8/30.10/4 .10/10.10/12.11/21.12 /20.2/15	内川隆子 (医療安全管理者) 角田由美子 (医療安全管理者)	全職員		82	42	2	126
KYT研 修会 実践編	2018/12.4.12.5.	内川隆子 (医療安全管理者) 角田由美子 (医療安全管理者)	全職員		20			20

参加者合計 5,534 人

職員一人当たり 2 回 / 年

2) 対象者限定研修会

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員	
新入職オリエンテーシ ョン医療安全研修	4/3	大坪 毅人 副院長	新入職者	60	155	41	10	266
研修医オリエンテーシ ョン医療安全研修	4/6	山田 浩史 (医療安全管理室専任医師) 角田 由美子 (医療安全管理者) 阿部 宏志 (医療安全管理室 係長)	初期研修医	41	/	/	/	41
平成29年度 6点未満者対象研修	4月~	/	平成29年度 6点未満者	78	45	12	12	147
中途入職者研修 (4月~3月26日現在)	4月~	内川隆子 (医療安全管理者) 角田由美子(医療安全管理者) 阿部宏志(医療安全管理室等従業医師) 山田浩史(医療安全管理室 専任医師) 瀬上航平(医療安全管理室 専任医師)	中途入職者・ 異動者・復職者	108	29	26	94	257

平成30年度 職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講人数

令和元年度7月3日更新

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員	
新SM対象研修	4/16	角田由美子 (医療安全管理者)	平成29年度 新セーフティマ ネージャー	10	3	4	2	19
新人看護師研修	4/6	角田由美子 (医療安全管理者) 阿部 宏志 (医療安全管理室専従薬剤師)	平成30年度 新入職	/	157	/	/	157
管理者対象研修	5/19,5/26,6/16	北川博昭(病院長) 大坪毅人(副院長) 田中恒明(薬剤部長)	医師・看護師 事務	67	4	/	26	97

参加者合計 984 人

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 医師免許を有している者（初期臨床研修修了者） ② 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 ③ 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 大学病院ホームページにて公表。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由、管理者の選考結果、選考過程について大学病院ホームページにて、一般公開を行う予定。 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
三宅 良彦	聖マリアンナ医科大学	○	副理事長	有 ・ 無
久保田 恭司	聖マリアンナ医科大学		理事	有 ・ 無
加藤 智啓	聖マリアンナ医科大学		医学部長	有 ・ 無
伊東 文生	聖マリアンナ医科大学		研究科長	有 ・ 無
平 泰彦	聖マリアンナ医科大学		大学病院副院長	有 ・ 無
本館 教子	聖マリアンナ医科大学		大学病院看護部長	有 ・ 無
二川 一男	外部組織		外部有識者	有 / 無
益子 まり	外部組織		外部有識者	有 / 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算等を審議。 ・審議の概要の従業者への周知状況 各部署の所属長より審議内容について、周知徹底を行っている。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
別紙 管理運営会議名簿参照			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容。具体的には、病院業務の総括者として、病院の管理運営に必要な人事及び予算の執行権限を有する旨を明記している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長（5名）がそれぞれの役割を担い、病院長を補佐し、病院長に事故あるときは予め指名された副院長がその職務を代理し、病院長が欠けたときはその職務を行う。
病院顧問は、本院の業務遂行に関し、管理者に助言することができる。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

「中堅事務職員研修会」、「管理者対象医療安全研修」、「評価者研修会」

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容：医療安全管理業務の執行状況に関する監査 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 公表の方法：聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表。 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、 明治大学法科大学院 教授、山本柴崎法律 事務所弁護士	○	日本を代表する民事訴訟法学者であり、医療事故調査委員会外部委員を務めるなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
小林 信秋	認定NPO法人難病の こども支援全国ネット ワーク会 会長		文部科学省や厚生労働省の協力委員や検討委員などを歴任され、様々な立場での見識を有し、長年にわたり患者の立場に立った活動を行い、医療機関の倫理委員等を務め、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
中尾 智彦	法務・監査室 室長		法人の法務・監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	その他

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容
監査実施計画に基づき定期的に業務監査及び財務会計監査を実施している。監査の結果、改善すべき事項があると判断した場合、文書にて対象部署の所属長に通知し、改善措置について回答を得ている。

- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
病院の予算執行状況等、管理運営に関する重要事項について監督する会議体の体制及び運営状況となっている。
- ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有・無 ）（ 年11回 ）
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
- ・ 公表の方法

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：常任委員会

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
明石 勝也	聖マリアンナ医科大学	○	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
尾崎 承一	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
三宅 良彦	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
北川 博昭	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
田口 芳雄	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
久保田 恭司	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
本田 伸夫	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
小宮 清	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
山本 真士	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
大石 忠生	外部組織		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
清水 至	外部組織		<input checked="" type="checkbox"/> 有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

2019年度 管理運営会議名簿

組織図上の役職等		氏名	
病 院 長 ・ 副 院 長	病院長	キタガワ 北川	ヒロアキ 博昭
	副院長 消化器・一般外科部長 【医療安全、感染対策、救命支援、防災対策、新病院建設】 中央手術部長、救命救急センター副センター長	オオツボ 大坪	タクヒト 毅人
	副院長 脳神経内科部長 【臨床倫理、選定療養、保育園、病床管理、診療情報】 夜間急患センター副センター長、脳卒中センター長、てんかんセンター副センター長	ハセガワ 長谷川	ヤスヒロ 泰弘
	副院長 救急科副部長 【地域連携、附属病院間連携、労働安全衛生】	タイラ 平	ヤスヒロ 泰彦
	副院長 呼吸器内科部長 【診療報酬、物品購入、教育・研修、病院機能評価】 呼吸器病センター長、臨床研修センター長	ミネタ 峯下	マサミチ 昌道
	副院長 看護部長 【看護・病床管理担当】	モトダテ 本館	ナリコ 教子
	診 療 部 門	総合診療内科部長 内科総合診療部長 メディカルサポートセンター長	マツダ 松田
循環器内科副部長 ハートセンター長、クリニカルエンジニア部副部長		ハラダ 原田	トモオ 智雄
消化器・肝臓内科部長		イトウ 伊東	フミオ 文生
腎臓・高血圧内科部長 腎臓病センター長、クリニカルエンジニア部副部長		シバガキ 柴垣	ユウゴ 有吾
代謝・内分泌内科部長 糖尿病センター長		タナカ 田中	ヤスシ 逸
血液内科部長 輸血部長		アライ 新井	アヤコ 文子
リウマチ・膠原病・アレルギー内科部長 リウマチ・膠原病生涯治療センター長		カワハタ 川畑	キミト 仁人
腫瘍内科部長 腫瘍センター長		ナカジマ 中島	タカコ 貴子
神経精神科部長 精神療法・ストレスケアセンター副センター長		コチヤ 古茶	ヒロキ 大樹
小児科部長 こどもセンター長、てんかん副センター長		シメズ 清水	ナオキ 直樹
新生児科部長 総合周産期母子医療センター長		ホクトウ 北東	イサム 功
心臓血管外科部長 ハイトリット®心臓大動脈治療センター長、ハートセンター副センター長		ミヤエリ 宮入	タカシ 剛
呼吸器外科副部長 呼吸器病センター副センター長		サジ 佐治	ヒサシ 久
小児外科部長 総合周産期母子医療センター副センター長、臨床研修センター副センター長、こどもセンター副センター長		フルタ 古田	シゲユキ 繁行
乳腺・内分泌外科部長 遺伝診療部長		ツガワ 津川	コウイチロウ 浩一郎
脳神経外科部長 脳卒中センター副センター長		タナカ 田中	ユウイチロウ 雄一郎
整形外科部長 リウマチ・膠原病生涯治療センター副センター長		ニキ 仁木	ヒサテル 久照
形成外科部長		カヅカワ 梶川	アキヨシ 明義
皮膚科部長		カドノ 門野	タカフミ 岳史
腎泌尿器外科部長		キクチ 菊地	エイジ 栄次
産科・婦人科部長 腫瘍センター副センター長、生殖医療センター長、総合周産期母子医療センター副センター長		スズキ 鈴木	ナオ 直
眼科部長		タカギ 高木	ヒトシ 均
耳鼻咽喉科部長		コイツカ 肥塚	イズミ 泉
放射線科部長 画像センター長、放射線治療センター長		ミムラ 三村	ヒデフミ 秀文
麻酔科部長 クリニカルエンジニア部長		イノウエ 井上	ソウイチロウ 荘一郎
病理診断科部長		コイケ 小池	ジュンキ 淳樹
救急科部長 救命救急センター長・夜間急患センター長		フジタニ 藤谷	シゲキ 茂樹
病理診断科参事兼技術課長		アベ 阿部	カヨコ 佳代子

2019年度 管理運営会議名簿

組織図上の役職等		氏名	
病院長直轄	医療安全管理室長 消化器・肝臓内科副部長、内視鏡センター長 医療安全管理室主幹	ヤスダ 安田	ヒロシ 宏
	医療安全管理室次長	ウチカワ 内川	タカコ 隆子
	感染制御部長 感染症センター副センター長	ヤマグチ 山口	サトシ 聡
	肝疾患医療センター長 消化器・一般外科副部	タケムラ 竹村	ヒロム 弘
診療施設部門	精神療法・ストレスケアセンター長 神経精神科副部長 認知症（老年精神疾患）治療研究センター副センター長	コイズミ 小泉	サトシ 哲
	統合失調症治療センター長	オサダ 長田	ケンイチ 賢一
	リハビリテーションセンター長	ソデナガ 袖長	ミチホ 光知穂
	リハビリテーションセンター参事	アンドウ 安藤	クミコ 久美子
	緩和ケアセンター長	キダ 木田	ケイスケ 圭亮
	感染症センター長 感染制御部副部長 健康診断センター長	ワタナベ 渡辺	サトシ 敏
	ゲノム医療推進センター	ツキカワ 月川	サトシ 賢
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	クニシマ 國島	ヒロユキ 広之
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	ハラ 原	マサシ 正壽
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	ヤマノ 山野	ヨシヒサ 嘉久
診療協力部門	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	ノブオカ 信岡	サテヒコ 祐彦
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	ヤマザキ 山崎	サトシ 哲
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	ヨシカワ 吉川	タツオ 達生
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	アベ 阿部	タツユキ 達之
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	イノ 井野	チさと ちさと
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	シミズ 清水	トオル 徹
	臨床検査部長 超音波センター長、診療記録管理室長 臨床検査部参事 臨床検査部副部長 画像センター参与 画像センター副センター長 放射線治療副センター長 放射線科副部長 臨床検査部技術主幹（輸血部） クリニカルエンジニア部参与兼技術課長	タナカ 田中	ツネアキ 恒明
医療支援管理部門	薬剤部長 治験管理室副室長 栄養部長	シバタ 柴田	ミチ みち
	メディカルサポートセンター参事	コバヤシ 小林	ケイ 圭
	治験管理室長	マツモト 松本	ナオキ 直樹
	治験管理室課長	オオタ 太田	ナオキ 直樹
	放射線管理室長	マエハラ 前原	ヨシアキ 善昭
	移植医療支援室長 腎泌尿器外科副部長 診療記録管理室主幹	ササキ 佐々木	ヒデオ 秀郎
事務部門	事務部長	モト 諸戸	マユミ 真由美
	管理課課長	ネツ 根津	ヤスヒロ 保廣
	医事課長	クサナギ 草薙	タクヤ 拓也
その他事務部門	病院経営管理室長	サルタ 猿田	テツヤ 哲也
	総務部参事兼総務課長	カワセ 川瀬	ヒロカズ 弘一
	人事部参与兼人事課課長	シマヅ 島津	コウジ 幸二
	財務部財務課課長	スガハラ 菅原	トシヤ 敏弥
	施設環境課長兼管生キャンパスリニューアル推進準備室課長	ムラタ 村田	タケシ 武司
	調達部参事兼購買・物品管理課課長	コジマ 小島	コウジ 浩二
	I T戦略推進室参事兼室長	ソネタ 曾根田	マサヒロ 昌弘
庶務・書記	管理課係長	シモヒラ 下平	ヒデフミ 秀文
	管理課主任	ムラマツ 村松	タカシ 隆志
	管理課	ヤス 矢部	ヨシヒサ 義久
		サイノウ 齊藤	サチ子 沙織
		オキノ 荻野	トモキ 智紀

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 評価機関名：公益財団法人 日本医療機能評価機構 評価時期：平成28年11月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページにおける情報発信。病院案内のページに先進医療や専門外来を掲載。 講演会開催や、地域医療施設へパンフレット「地域の輪」を配布。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 診療科間において、診療依頼票による書面での依頼を行う。 合同カンファレンスの実施や電子カルテにより情報共有し、連携して対応に当たっている。 センター化することにより、複数科でのチーム医療を実施。	

(様式第 8)

聖医大管 第 260 号

令和元年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 聖マリ
理事長 明石 勝

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

管理者、医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者

2020 年 1 月 7 日 日本医療機能評価機構が主催する特定機能病院管理者研修を受講予定。

医薬品安全管理責任者

2019 年 10 月 11 日 日本医療機能評価機構実施「2019 年度特定機能病院管理者研修」
受講予定。

2020 年 8 月 日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会受講予定。

2. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（15）名、専任（2）名、兼任（5）名
 - うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（2）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医療安全管理室に専従の医師（平成 31 年度までは専任 2 名）、薬剤師及び看護師の医療安全管理者を配置している。